

令和7年度法人事業計画

社会福祉法人 幸輝会

・法人の使命

人間尊重の基本理念の下、地域社会に根ざした福祉活動を通じて関係性の維持、再構築を図り、地域の基幹的支援施設としての役割を果たします。

・現状の総括と課題、問題点

昨年度に引き続き、社会福祉法人を取り巻く経営環境は、物価高騰、人材採用難、感染症問題等と厳しい状況が続いていますが、働き方改革、BCP構築、生産性の向上等の取組をさらに進め、法人経営を安定軌道に戻していかなければなりません。

そして近年の人口構造の大きな変化に伴い、社会福祉分野においても地域の衰退、家族機能のさらなる弱体化等により地域生活課題がさらに多様化し、複雑化してきています。法人内各拠点事業所が地域におけるセーフティーネットとしての役割を発揮し、地域に根差し、貢献し続ける必要があります。

・今年度法人の基本方針

地域福祉サービスの主たる担い手として、利用者はもとより、地域に関わる人達の「豊かに生きる」を支えるため、社会福祉法人としてのあるべき姿を再考し、福祉に携わる法人として社会的責任を先頭に立って果たしていきます。

・今年度法人の全体目標

『 楽しいの実践で、心豊かな生活を実現しよう！ 』

・具体的行動目標

- 福祉サービスの質の向上（利用者の尊厳と意思の尊重）
- 福祉人財の確保・育成と定着（働き方改革の推進）
- 健全性と透明性の確保（コンプライアンスの徹底）
- 財務規律の安定強化（スケールメリットの活用）
- 持続可能な社会の実現に向けて（SDG s の取組み推進）
- 災害発生及び感染症に対する備え（BCP体制整備）
- 生産性の向上（DX化と業務改善の推進）

・数値目標（各拠点事業所単位）

- ◇ 経常収支差額比率： 4%±1%以内（指定管理事業所は5～6%）
- ◇ 事業活動人件費率： 63%±1%以内
- ◇ 事業活動経費率： 31%±1%以内

令和 7 年度事業計画

特別別養護老人ホーム幸輝園「介護老人福祉施設」
「短期入所生活介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

数年続いていた新型コロナウイルス感染症も落ち着きつつあり、園内外の行事の再開や面会制限の緩和が進む中、徐々に感染症前の日常に戻りつつあります。しかし、周辺ではインフルエンザやマイコプラズマ肺炎など、他の感染症の流行が報告されており、引き続き感染対策の徹底や、異常の早期発見と対応を含む体調管理を継続して行う必要があります。

また、超高齢化や多様な疾病を抱える入所者が増加している状況において、園内での医療ニーズへの対応や迅速な外部医療機関との連携が求められています。さらに、体調不良により長期入院を要する入所者が増え、その結果退所に至るケースも増加しています。このため、園内の医療体制の強化に加えて、機能訓練や余暇活動の充実を図ることで、入所者の体力および ADL の維持・向上に努める必要があります。

外国人労働者や新入職員へのサポートを通じて人材育成を進めるとともに、昨年から取り組んでいる DX 化や ICT の活用をさらに推進し、業務の見直しと効率化を図る必要があります。これにより、職員の身体的・精神的負担を軽減し、入所者との関わりの時間を増やして生活の質の向上に取り組むことが重要です。

《サービス基本方針》

- ・ ご家族や医療・福祉の多職種との連携を大切にし、異常の早期発見や迅速な対応を行い 1 日でも長く元気にその人らしく生活できるように支援します。
- ・ 入所者一人ひとりが人とのつながりを大切にし入所者と職員が共に達成感と喜びを感じられる生活を実現、穏やかで充実した日々を過ごせるよう支援します。
- ・ 業務の効率化、身体への負担軽減を行い、職員一人一人が心と身体にゆとりを持って働くことができることで、入所者の生活の質の向上を行います。

《行動目標》

『多様化するニーズに答えることができ、

その人らしい生活の支援を行っていきます！』

《数値目標》

- ・ 長期平均稼働率 96%（1 日平均 92 名以上）
- ・ 短期平均稼働率 75%（1 日平均 13 名以上）

令和 7 年度事業計画

幸輝園ヘルパーステーション「訪問介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

令和 6 年度は、職員の減少によりサービス提供を制限せざるを得ない状況が続きました。その後、新しい職員が加わり体制は整いつつあるものの、当初は新規の問い合わせが少なく、サービスにつなげることが困難な状況でした。今年に入り、少しずつ新規の問い合わせが増えてきていますが、事業所からの距離や特定の時間帯の希望など、効率的なサービス提供を難しくする課題も見えています。

また、地域包括支援センターとの連携を強化した結果、総合事業の利用者は増えてきましたが、その多くが生活援助に偏っている傾向があります。一方で、介護サービスは利用者の重度化が進んでいるため、長期入院や施設入所が相次ぎ、新規利用者が決まっても提供の継続が至らないケースが続いています。

今後は、地域との連携をさらに深めるとともに、新規利用者の受け入れを促進し、特に身体介護の提供を増やしていくことが課題となります。

《サービス基本方針》

- ・ 日々のコミュニケーションを通じて利用者の体調変化や不調をいち早く見抜く力を強化し、適切な感染対策を徹底することで、安心してサービスを継続的に提供できる体制を整えます。
- ・ 関係機関と連携強化を行い、様々な状況、事情に合わせた柔軟なサービスを提供し、1 日でも長い在宅生活が送れるように支援していきます。
- ・ 職員間での情報共有、資質の向上に努め、利用者一人ひとりに寄り添ったきめ細やかなサービスを提供していきます。

《行動目標》

『住み慣れた自宅での生活を継続して頂けるように、

利用者 1 人 1 人に寄り添ったサービスを行います。』

《数値目標》

- ・ 実利用者人数 40 名（月延べ提供回数 300 回以上）
介護利用者 200 回
総合利用者 100 回

令和 7 年度事業計画

サテライト なごみ
「サテライト型小規模多機能型居宅介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

昨年 7 月デイサービス利用者 8 名の継続利用を基盤としてスタートしました。オリエンテーションに十分な時間を割くことが難しい状況ではありましたが、少人数ならではの利点を活かし、ご利用者一人ひとりに寄り添った個別ケアを徹底することを心がけました。その結果、心身の変化にいち早く対応することができ、ご利用者が体調を崩すことなく、元気にご利用いただいております。

また、身体介護が必要なケースが多い中、利用者の生活スタイルやニーズに合わせ、「通い」「泊まり」サービスを毎日柔軟に提供しています。さらに、精神的・医療的な不安を抱えるご利用者に対しては、傾聴を通じて安心感を与え、笑顔があふれる生活を支援しております。「訪問」サービスを活用しながら、在宅生活を継続できるよう努めております。

今後の課題としては、職員一人ひとりのスキル向上や、日々の報告・連絡・相談の充実が求められます。変化する利用者ニーズに柔軟に対応する体制の構築が必要だと考えます。また、地域資源との連携を強化し、認知度向上や地域住民との協力体制の構築にも注力する必要があります。

《サービス基本方針》

- ・ ご利用者一人ひとりの思いを受け入れ、「ご利用者が笑顔で過ごせる場所」の提供に努めます。
- ・ 一人ひとりの個性を大切に、「その人が求めている」ニーズに応えられるよう、状況や要望に応じたサービスに努めます。
- ・ サービス評価(事業所評価と地域の外部評価)において各職員が自己を振り返りながら研修等を通じてスキルアップを図り質の良いサービス提供を目指します。
- ・ 感染症や災害が発生した場合でも、必要なサービスが安定的継続的に提供される体制を構築していきます。(BCP)

《行動目標》

『一人一人がその人らしく笑顔で過ごせる毎日を』

～思いを尊重した寄り添うケアを～

《数値目標》

- ・ 平均稼働率 90% (平均登録人数 16 名以上)

令和 7 年度事業計画

さつき園「地域密着型介護老人福祉施設生活介護」
「短期入所生活介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

令和 6 年度は、定員数に対し約半数の入居者の入れ替わりがありました。コロナ感染症が 5 類感染症に移行しても、ご家族や外部との関りが減っています。また、入居者の介護量が増加したこともあり、外出やレクリエーション活動の機会も減っています。コロナ前とは入居者の状態も大きく変わりましたが、さつき園で「楽しく自分らしい生活」が送れる様に支援を行っていきたいと考えます。

入居者の重度化に伴い職員の身体的負担等のリスクも増加しています。無理な介護は職員・入居者双方の負担になります。福祉用具や研修、専門職の指導を取り入れ、職員のケアの見直しとスキルアップを行っていく必要があると考えます。

ショートステイを利用されている方やご家族はもちろん、新規の利用者、ご家族が継続して利用していただけるように、利用して良かったと思っていただけるような支援、取り組みを実践します。常に、「できない」ではなく「できる」ように何か方法がないか？考えるチーム作りが必要と考えます。

他職種とのコミュニケーションを意識し、連絡・報告・相談が円滑に実践できるように日頃から積極的に関わるように努めます。

感染症対策の一環として、長期間にわたり面会制限を実施してまいりましたが、入居者・ご家族の交流の重要性を踏まえ、4 月より面会制限の緩和を実践します。これにより、入居者がご家族とより自由に交流できる環境を整え、生活の質の向上や心理的安定を推進していきます。

《サービス基本方針》

- ・入居者・利用者の「その人らしさ」を理解し、個々の多様化するニーズに応じて支援していきます。
- ・入居者の体調や変化にスムーズに対応出来るよう、チームワークを大切にしたアプローチを実践します。
- ・入居者やご家族との関りを増やし、楽しみのある生活が送れる様支援します。
- ・職員個々のスキルアップを目指し、介護力の底上げが出来る様取り組みます。
- ・感染症や災害が発生した場合でも、必要な支援が継続的に提供できるような体制づくりを構築していきます。(BCP)

《行動目標》

『入居者・職員が共に楽しく、

笑顔で過ごせるよう支援を提供します。』

《数値目標》

- ・長期入居平均稼働率 93% (1日27名)
- ・短期入所平均稼働率 83% (1日7～8名)

令和 7 年度事業計画

かたらい「小規模多機能型居宅介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

・『できるを増やして、思わず笑みがこぼれる毎日に』を行動目標に、ご利用者の個々の能力について正確に把握できるよう、毎日の申し送りや月 1 回の部署会議を通じて職員間で意見を出しあう場を設け、そして支援に向けて連携を図るようにしました。また行事やアクティビティなどの余暇活動についても、各担当者がご利用者の意見、趣味や嗜好を元に計画を立て実施していくことで日々の活動のマンネリ化を防ぎ、ご利用者から喜びの声をいただく事もありました。行事回数については昨年度よりも多く実施し、『思わず笑みがこぼれる毎日に』に少しでも近づけたのではないかと思います。

・課題としては今年度 4 月に登録者数 27 名(29 名登録に対して)でスタートしましたが、下半期に入院者、施設入所者が増加し令和 7 年 3 月時点で登録者数 23 名と減少しています。新規登録者を増やしていくためにも他の事業所との差別化を図り、アピールポイントを作っていくことが必要ではないかと考えています。その為の取り組みとして、来年度は外部の研修に積極的に参加し、個々のスキルアップに繋げたり他事業所の取り組みを知ることも重要かと思えます。小規模多機能型居宅介護の特徴でもある柔軟性のあるサービス提供に、プラスαのサービス提供ができる事業所を目指していきたいです。

《サービス基本方針》

- 職員それぞれがスキルアップを目指し、研修等に参加することで専門性の高い介護を提供していきます。
- 事業所内の連携だけにとどまらず、事業所外の専門職とも連携を図りながら、ニーズへの取り組みや臨機応変な対応に努めます。
- 運営推進会議やサービス評価(事業所評価と地域の外部評価)を通じて、地域の方の率直な意見を取り入れ、地域に必要とされる事業を目指します。
- 感染症や災害が発生した場合でも、必要なサービスが安定的継続的に提供される体制を構築していきます。(BCP)

《行動目標》

ご利用者の『声』を形に出来る統一したチームケアを目指そう

～ご利用者一人ひとりに同じように目を向けて～

《数値目標》

- ・平均稼働率 93% (平均登録人数 27 名以上)

令和 7 年度事業計画

幸輝園デイサービスセンター

《現状の総括及び課題と問題点》

- ・今年度より新体制になり様々な事に変化を感じる一年でした。提供するプログラムの構成から職員の役割分担の変更により利用者の「やりたい事」を引き出し、利用者、家族に喜んでもらえるデイサービスを目指し業務改善を行いました。まだ定着しない部分がありますが、今後も引き続き目標に向かってより良いサービスの提供を目指します。
- ・新規利用者の確保に向けた広報活動も徐々に範囲を広げ、一人でも多くの方に喜んで頂けるように他職種との連携や情報収集に努めます。
- ・利用者の方で認知症の進行により対応が難しくなりつつある状況で、どのような対応がその方にとって良いのか、また周りとの関わり方を模索しています。
- ・老々介護の環境の中、家族の現状の把握と理解、その家族へのアプローチの難しさを感じます。今後は担当ケアマネージャーや他職種との相談のもとに私たちができる支援を実践し、「在宅での生活が一日で多く継続できるように」取り組んで参ります。

《サービス基本方針》

- ひとつでも多くのヒヤリ・ハットに気付き、事故を未然に防ぎ、在宅生活が一日でも長く継続できるように支援します。
- 事故が起きた時に速やかな行動が出来るように努めます。
- 利用者の体調の変化にいち早く気付き、安心・安全に利用できるデイサービスを目指します。
- いつまでも住み慣れた地域・自宅で生活できるよう、ご利用者の状態に合わせたアクティビティ等、充実したプログラムを提供します。
- 利用者の想い、家族の想いを汲み取り、満足していただけるサービス事業所を目指します。
- 感染症や災害が発生した場合であっても、必要な介護サービスが継続的に提供できるように研修・訓練の実施等をすすめていきます。

《行動目標》

『楽しく・元気になれるデイサービスを！』

～個々のプログラムの充実を目指す～

《数値目標》

- ・平均稼働率 80%、1 日利用平均 20 名以上（定員 25 名）

令和7年度事業計画

幸輝園ケアプランセンター「居宅介護支援事業所」

《現状の総括及び課題と問題点》

勤労収入の無い高齢者では、物価高により食料や光熱費の値上げが家計を圧迫しています。介護にかけられる費用の減少により自己負担額がいくらになるのかを気にされる方が多くなっているように思います。今後、生活がひっ迫しているご利用者はサービスの利用控えにもつながると考えています。必要な制度への理解を深めることでご利用者・ご家族によりよい提案ができるようにします。

サービスの利用控えで心身の状態が悪化しないように、「物事の本質を見抜く力」「見えていない部分まで見抜いていく力」を養い、アセスメント能力の向上を目指します。

ご利用者・ご家族の生活（背景）の思い、ご利用者・ご家族が想像できないリスクを専門職が想像していく力を発揮できるように取り組みます。

《サービス基本方針》

- ご利用者の自立支援と悪化の防止に努めます。
- 虐待の発生の防止・早期発見に努めます。
- 介護保険制度に則し、コンプライアンスを遵守した公正・中立な業務を継続します。
- 一人ひとりが、業務改善・見直しに努め介護支援専門員としての資質・専門性の向上に努めます。
- 感染症や災害が発生した場合であっても必要な介護サービスが継続的に提供できるように業務継続に向けた計画等の策定、研修・訓練の実施等をすすめていきます。

《行動目標》

『アセスメント力の向上を目指そう！』

《数値目標》

- ・ 要介護 ケアプラン作成数 月平均100件
- ・ 介護予防サービスおよび介護予防マネジメント プラン作成数 月平均15件

令和7年度事業計画

かがやき「ケアハウス」

《現状の総括及び課題点》

- ・現在入居者の4分の3が何らかの介護サービスを利用しており、身体機能の低下や認知症状の進行が顕著にみられる方が増えている為、日々ご入居者とのコミュニケーション等でご入居者一人一人の些細な変化に気づき、職員同士の情報共有により体調不良の早期発見、身体機能の活性化、リスク回避を図ることが大切だと思われる。そのためには職員一人一人のコミュニケーション能力や専門知識等スキルアップが必要である。
- ・令和6年度は転倒骨折、体調不良で9名の方が入院、転倒しそうになる、転倒した、ぶつかりそうになるなどのヒヤリハットも増えているため、現在行っている転倒予防体操に出来るだけ参加してもらえよう、声掛けや工夫が必要である。
- ・ご入居者が自立した方から要介護状態の方と幅広く生活しており、一人一人のニーズも多様化している。他部署間、他事業所と密に情報共有しながら連携・協力し、またご家族にもご入居者の現状報告を定期的に行う等コミュニケーションを図りながら、出来るだけ長く元気で安心した生活が送れるように支援を行っていく事が求められている。
- ・ケアハウスは個々の住居であり、今後想定される南海トラフ等の自然災害に備えて、災害対策をご入居者と一緒に考え備えていく必要がある。
- ・様々な緊急時の対応について、職員一人一人が動けるよう職員間での情報共有・動作の確認等を密にしておく必要がある。

《サービス基本方針》

- ・ご入居者が心身共に健康で安心した暮らしができるよう、ご家族様・他事業所と連携し生活を支援致します。
- ・ご入居者のニーズが多様化している中、適切な提案や助言が出来るように職員一人ひとりのスキルアップに努めます。
- ・一人ひとりの「想い」を大切に、笑顔あふれる暮らしができるように努めます。

《行動目標》

『入居者の気持ちに寄り添い笑顔が多い暮らしの実現と

安心安全な生活の提供を目指します。』

《数値目標》

- ・定員29名に対し28名を維持する。

令和 7 年度事業計画

特別養護老人ホーム みまさか園
「介護老人福祉施設」
「短期入所生活介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

光熱費の値上げや物価高の行き先が読めない中、団塊の世代が 75 歳後期高齢者となる年を迎えようとしています。介護を必要とする高齢者が増加傾向にあり、介護職の高齢化と言われている中、若い新入職員を迎える事ができました。新入職員の指導の見直し、中堅職員のスキルアップが必要と感じています。

夏頃より、空調の故障により、御利用者と職員の体調管理を行いながらの業務となり、職員がワンチームとなって対応する事ができました。

今年度は、退所者の半数が看取りケアで施設での最期を迎えられ、その人らしい最期を見守り、御家族の思いに寄り添うケアを行う事ができたと思います。

感染対策では、迅速かつ適切な対応が求められる中、施設全体が一つとなり、早期収束ができていていると感じています。

短期入所生活介護では、おもてなしの心で「気持ちよく迎え」「気持ちよく帰っていただく」「また来たい」と思っただけのような記憶に残るサービス提供を行い、御家族、居宅介護支援事業所から、より厚い信頼を寄せていただけるよう努力が必要と感じています。

《サービス基本方針》

- ・暮らしの基本である「美味しい食事」「気持ちよい排泄」「爽快感や満足感が得られる入浴」「心地よい睡眠」ができるようケアを行います
- ・職員の自己研鑽による専門性の資質の向上と、スタッフのメンタルケアを行います
- ・「ムリ・ムダ・ムラ」の明確化に努め、業務の効率化を図ります
- ・介護ロボットや福祉用具の進化、時代とともに変化していく新しい考え方や、介助方法を研修等で学び、それらを活用して御利用者の生活がより豊かになるよう取り組みます
- ・地域住民から信頼される福祉活動と地域貢献に努めます

《行動目標》

『 御利用者の思いや心地よさを優先し

全ての人に思いやりを持って寄り添う 』

《数値目標》

平均感動率	長期入所	96% (1 日平均 48 人以上)
	短期入所	85% (1 日平均 17 人以上)

令和7年度事業計画

ゆうゆうの里デイサービスセンター
「通所介護支援事業所」

《現状の総括及び課題と問題点》

6年度、利用者確保に苦戦しながらも、楽しい笑いのある事業所を基本としながら、行動目標にした固定観念にとらわれず様々な角度からのサービス提供に挑戦し、さらに上質な介護サービスを提供、在宅で生活をするご利用者、ご家族に頼られるデイサービス、地域の中にある身近な介護事業所として、利用率の維持・向上を図ってきました。

7年度は『食を楽しみ、創造し、心豊かな生活へ』をテーマにご利用者の立場に立ったサービス、必要以上の介護のみではなく、「食」「楽しむ」「創造」を最大限活用し、必要な介護プラスその方を支援するサービスを実施していきます。また前年度より取り組んでいるサービス提供外の生活支援も継続し、ご利用者ご家族に多彩な発想を発信しながらニーズにあったサービスを実施していきます。

《サービス基本方針》

- ・ご利用者一人一人の個性を認識し、ご本人に合ったレク・プログラム・機能訓練を行い残存機能の維持ができるよう支援します。
- ・食べられることに喜びと楽しみを持っていただけるよう、イベントの企画実施を行い心の豊かさに繋げられるよう支援します。
- ・職員一人一人が、創造力を高め、実行し、ご利用者の笑顔に繋げることが出来るよう努力します。
- ・BCPを策定し非常災害時、感染症蔓延時に備えます。

《行動目標》

『食を楽しみ 創造し 心豊かな生活へ！！』

《数値目標》

目標稼働率 80%（1日平均40名以上）

令和 7 年度事業計画

ゆうゆうの里ヘルパーセンター
「訪問介護支援事業所」

《現状の総括及び課題と問題点》

前年度「笑顔」をキーワードに接遇の基本の見直しの研修を行いました。職員の接遇に対する意識が強くなり、職員間の情報共有もしっかり行い、気持ちの良いサービスが出来ていると思います。

社会思想の転換期、ご利用者の利用のあり方も変動してきているのではないかと感じます。感染のあるご利用者、悪天候の際の訪問になど、置かれた環境下で訪問事業を適切に続けられるように考えて行かなければなりません。

ご利用者からはヘルパーの統一のサービスを求められています。

本年度も『安全』『安心』なサービスを提供するためにサービスの均一化と職員の資質向上をはかります。

《サービス基本方針》

- ・笑顔で訪問。ご利用者の思いを知り、理解し寄り添い前向きな生活を送る為の架け橋となれるよう支援します。
- ・離れたご家族の方にも安心していただけるように、ご利用者の様子をしっかりと観察しサービス提供を実施していきます。
- ・報告・連絡・相談をしっかり行い、法令を正しく理解してご利用者のニーズに迅速に対応します。
- ・基本となる研修を行うことで職員個々の統一したサービスが行えるよう向上を図ります。

《行動目標》

『ご利用者への細やかな気配りと適切な対応、信頼関係を積み重ね、住み慣れた家・地域で安全で安心した在宅生活を過ごせるよう迅速な支援を致します』

《数値目標》

- ・実利用者人数 75 名（月延べ提供回数 650 回以上）

令和 7 年度事業計画

ゆうゆうの里ケアプランセンター
「居宅介護支援事業所」

《現状の総括及び課題と問題点》

昨年末より 3 人体制となりました。新規依頼も引き受けてきましたが、それを上回る入院や施設入所、亡くなられる方も多くご利用者の定着にむすび付きませんでした。今、身寄りのない方、経済的に問題のある方、暴力行為やゴミ屋敷問題、カスタマーハラスメント等ご利用者だけでなくご家族にも支援が必要な方が増えています。

信頼できるケアマネジャーとして各関係機関、多職種、地域の方々と協力して安心して在宅生活が送れるように支援します。又、一方若いご利用者・ご家族もおられメディアやネット等で様々な情報を得られる状態です。常に柔軟に対応できるように知識とスキルを高め自己研鑽に努めてまいります。

《サービス基本方針》

- ・ 特定事業所としての必要な責務を全うするように努めます
- ・ 地域課題解決への協力、実践を行います
- ・ 多職種・他機関との連携を図ります
- ・ 自己啓発に努め、知識向上、人間形成に努めます
- ・ 施設内外での非常災害・食中毒や感染症の B C P に取り組みます

《行動目標》

『常に柔軟に、知識とスキルを高め自己研鑽に努める』

《数値目標》

- ・ 要介護ケアプラン作成数 月 110 件
- ・ 要支援ケアプラン作成数 月 10 件

令和 7 年度事業計画

ケアハウス さいわい
「軽費老人ホーム」

《現状の総括及び課題と問題点》

令和 6 年度 1 年間退所者はなく落ちついた状況でした。感染症の発症もありましたが拡散することなく終息しました。体調不良で入退院もありましたが短期間の入院で回復され 15 名揃って過ごす日が続いています。

この一年、皆さん健康維持に努め脳トレ、体操と熱心に取り組まれました。体調は安定しているものの医療を切り離すことは出来ず薬を飲まれ受診、往診を続けています。

又、毎日の処置が必要な方や、認知症の進行も防げず物忘れが著名でタッフの支援が必要な方も増えています。自立した生活の場とはいえ直接的介護が必要な方が増えている状況の中、次の施設を考えるのか、どこまで支援をすればよいのか、線引きが難しいと感じています。ケアハウスは在宅であり一つの地域と考えれば、入居者の方々がお互い支え合い住み慣れた地域（施設）で暮らしていけないものかと考えるばかりです。ケアハウスで出来る限り長く生活できるよう健康維持はもちろん自身の役割・生活意義を最大限に生かせる施設であるよう努めていきたいと思ひます。

《サービス基本方針》

- ・職員、ご利用者間の理解を深め助け合い、支え合える仲間作りができ、さいわい地域の住民として出来る限り長く生活ができるよう支援します。
- ・感染予防、体調管理、体力作りを行い持病の悪化や病気の発症を予防するとともに体調の変化時には医療機関に繋がります。
- ・多職種との連携を密にし必要なサービス、必要な支援に繋がります。
- ・地域資源の活用を行い地域社会との交流を深めていきます。
- ・SDG s の取り組みを推進します
- ・災害発生及び感染症に対する BCP 体制整備を行います。

《行動目標》

『楽しく、豊かに、安心して自立した生活が送れるよう支援する』

《数値目標》

15 名 （15 名定員）

令和 7 年度事業計画

特別養護老人ホーム作東寮
「介護老人福祉施設」
「短期入所生活介護」

《現状の総括及び課題と問題点》

今年度は感染症も落ち着き、定期的な会議の開催、個人単位での外出やイベント、食レクを実施することができ『ご利用者、職員が共に笑い、共に笑顔になれるサービス提供』をすることができた。また、前期には看取りがあり、ご利用者に寄り添い、不安や孤独感の軽減を心掛け、施設ならではの賑やかで温かい看取りができたのではないかと感じます。

課題として個人単位でのカンファレンスの開催や新規面接等への同行が思うようにできないことがありました。令和 7 年度は『その人らしく笑顔で豊かな生活を送っていただける』ような 1 年にしたい。定期的な会議の継続、カンファレンスの実施、ご利用者と職員が共に楽しむことができる遠出の外出や季節を感じていただけるイベント、自宅方面への身近な外出。ご利用者の『行きたい、食べたい、見たい』を探り、その気持ちの鮮度が高いうちに気軽に実施できる体制を整えていきたい。また、少しずつ看取りの体制作りにも力を入れていくためにも、職員間での目的、目標意義の共有や多職種との更なる連携強化を図りながら進めていきます。そして作東事業所全体として「**Change** ～変化、変わる～」を掲げ、業務内容や様々な取り組み、職員個々の意識を少しずつ良い方向へ変えていくことを意識すると共に少しずつでも変わっていかなければならないことを認識し、今よりもさらに良いサービス提供のため「**Change**」を合言葉に取り組んでいきます。

《サービス基本方針》

- ご利用者一人ひとりを深く理解し、職員も共に楽しみながら個別ケアを提供するためにもカンファレンスや会議等をしっかりと開催し、情報の共有に努めます。
- 「ヒヤリハット」「事故報告策・改善策」の共有を行い、事故の発生・再発防止に努めます。
- ご利用者の希望（ニーズ）を実現するために、職員一人ひとりの長所（強み）を生かし、職員間の協力体制を整備します。
- みおつくしの職員基本行動心得である「あいさつ」「言葉使い」「みだしなみ」等に注意し、ご利用者や職員にとってより快適な生活環境を作ります。
- 「認知症ケア」「身体拘束廃止」「虐待防止」への理解を深め、適切なサービス提供を実施します。
- 地域の方々や関係機関との信頼関係を更に構築し「作東寮」の存在価値を高めます。
- 遠出企画を実施し、「楽しい」をご利用者と職員が共に共有できる機会を作ります。

《行動目標》

『 **ご利用者・職員が共に楽しみ、共に可能性を Step up !** 』

《数値目標》

長期平均稼働率 97%（定員 40 名に対して 38.8 名）
短期平均稼働率 80%（定員 3 名に対して 2.4 名）

令和7年度事業計画

作東寮養護老人ホーム
「養護老人ホーム」

《現状の総括及び課題と問題点》

感染症に関しては少しずつ落ち着き、日々のご利用者の体調管理と感染症予防対策にご協力して頂き、同時に職員も予防と感染症に対する正しい知識を身につけ対応し、感染症発生時にも的確・迅速に対応することができるようになりました。

また、コロナ渦で中止を余儀なくされていたイベントや外出などは、チームや多職種が協力し計画した全ての行事を行う事が出来、沢山のご利用者に喜んでいただきました。その結果、ご利用者、職員が共に活力を得られ、日々の生活に彩りを加えてくれることを再確認できました。ご利用者の重度化・多様化により医療的ニーズ、介護ニーズが高くなっている現状があり、引き続き多職種連携を円滑におこない従来の養護老人ホームの概念に囚われない柔軟な思考や対応が必要と考え、その為にも日々のご利用者との関りを大事にし、ケアの向上を目指したいと考えます。

この3年間は満床になる事がなく経営面への圧迫が続き、空床対策が課題となっています。近隣市町村との連携を強化し地域において生活が困難で支援が必要な方への対応を行い地域のニーズに応え、地域貢献できるよう取り組むと共に、セーフティーネットとして選んでいただける施設を目指します。そして作東事業所全体として「Change ～変化、変わる～」を掲げ、業務内容や様々な取り組み、職員個々の意識を少しずつ良い方向へ変えていくことを意識すると共に少しずつでも変わっていかねばならないことを認識し、今よりもさらに良いサービス提供のため「Change」を合言葉に取り組んでいきます。

《サービス基本方針》

- 多職種と連携し共有・協力し、共によりよいケアの実現の為に学びに努めます。
- 職員同士認め合い助け合える明るい職場を目指します。
- ご利用者の出来る事を見つけ、いつまでも「自分らしく生きる」ための支援をサポートします。
- ご利用者のありのままを受け止め寄り添う看護を提供します。
- 「認知症ケア」「身体拘束廃止」「虐待防止」への理解を深め適切なケアを継続していきます。

《行動目標》

『一年を通じてご利用者と職員が共に楽しむ企画を実行し、
職員各々が決めたチャレンジ&チャレンジを実行します！』

《数値目標》

月初在籍者数60名

令和 7 年度事業計画

訪問介護ステーションいぶき「訪問介護」
サテライト はっぴーらいふ

《現状の総括及び課題と問題点》

昨年度は、養護入所者においては要介護認定を受けた状態で入所されるご利用者が多く、入浴や排泄、掃除等の支援の組み合わせが多くなっています。また要介護 3 以上のご利用者も増え、ご利用者の入退院も多く、作東寮で「安全・安心な生活」を送るために必要なニーズの把握が難しい時期もありましたが、ご利用者に対して必要な生活上の支援、サービス提供（入浴、排泄、居室の環境整備など）は出来る限り行う事ができました。また、はっぴーらいふと共に新体制開始から 1 年が経過し、施設と地域へのサービス提供を滞る事が無い様、職員間で協力し、笑顔を中心掛けながら行うことができました。今後も本体施設とサテライトとの協力体制を更に強化し、養護老人ホーム内のサービス提供はもちろんのこと地域で訪問介護を必要としている方々へのサービス提供にも力を入れ、今まで施設内で培ってきた訪問介護の力とサテライトはっぴーらいふと共に地域へも発信していくことで在宅での生活が困難で支援が必要な方への対応を積極的に行い、地域に貢献できるように取り組みます。そして作東事業所全体として「**Change** ～変化、変わる～」を掲げ、業務内容や様々な取り組み、職員個々の意識を少しずつ良い方向へ変えていくことを意識すると共に少しずつでも変わっていかねばならないことを認識し、今よりもさらに良いサービス提供のため「**Change**」を合言葉に取り組んでいきます。

《サービス基本方針》

- 職員間で連携を取り、ご利用者の残存機能の把握に努め、その機能が継続できる様、意欲が湧く声掛けの支援を提供します。
- 利用者の状態把握に努め、多職種及び他部署との連携を円滑に行い、情報の共有に努めます。
- みおつくしの職員基本行動心得である「あいさつ」「言葉使い」「みだしなみ」等に注意し利用者や職員にとって、より快適で気持ちのいい、楽しく過ごせるような生活環境を作ります。
- 利用者との会話を心がけ、支援時に今以上の寄り添い思いを心がけます。
- いぶき、はっぴーらいふと連携、協力を取りサポート体制強化に努めます。
- 健康管理を徹底し、元気にサービス過ごせるよう協力していきます。
- 地域ケア会議等に参加し、地域に寄り添うことを目指します。

《行動目標》

「サービスの質の向上を目指し

安全で快適な日常生活を支援します。」

《数値目標》

- ・ 外部身体介護 1 4 0 0 0 回／月 ・ 外部身体介護 2 3 8 0 回／月
- ・ 在宅訪問サービス登録人数 8 名（いぶき）
- ・ 在宅訪問サービス登録人数 3 0 名（はっぴーらいふ）

令和 7 年度事業計画

養護老人ホーム塩手荘「養護老人ホーム」

《現状の総括及び課題と問題点》

令和 7 年 4 月 1 日より 5 年間の新たな指定管理期間に入ります。

一般型特定入所者生活介護に体制を変更してから、利用者へのサービスの質を落とす事なく、取り組んでいます。感染症に関しては大きなクラスター状態になることもなく、利用者にとって、快適な生活が送れている様です。「自立を支援する」普遍的な目標に取り組んでいますが、利用者個々の希望・要望にどの様に応えていくのか、やがて終焉を迎えるにあたり、身寄りのない方の身辺整理、貯蓄の計画と課題はあります。

近年入所される利用者からは、在宅時と同じような自由な生活様式を希望される方が多くなっているのが現状です。「生きがい」を感じていただくには、施設での生活には欠かせない感情ではありますが、集団生活では他者と良好な関係を作ることが難しく感じている方も多くいます。良好な集団生活・生きがいを感じていただく様取り組んでいきます。

《サービス基本方針》

『自立した生活、生きがいのある生活の支援をおこないます』

《行動目標》

- ① 個別支援を通じて、生きがいを感じられるサービスを提供をします。
- ② ケアプランを充実させ、より良い生活環境を提供をします。
- ③ 嗜好調査をもとに、リクエストメニューの充実を行います。
- ④ 「個別」「全体」を区分し、日常生活に必要な楽しみの場所の提供をします。
- ⑤ ご自分の現在の身体状況が分かり、楽しみが持てる機能訓練を提供します。
- ⑥ 地域のサロンへ参加し、地域への貢献をおこないます。

《数値目標》

月初在籍 60 名

特定入所者定員 30 名を常に確保する